

# シスコ コラボレーション ソリューション: Microsoft v2 との相互運用性: Microsoft Office 365

最終更新日: 2017 年 12 月 8 日

## このデモンストレーションについて

このデモンストレーションでは、シスコのコラボレーション ソリューションで使用できる機能によって、全社的に生産性を向上させ、コミュニケーションを改善する方法を示します。

- [要件](#)
- [このソリューションについて](#)
- [トポロジ](#)
- [セッション ユーザ](#)
- [はじめに](#)
- [シナリオ 1: Microsoft Skype for Business と Cisco Unified Communications の相互運用性](#)
- [シナリオ 2: Skype for Business を利用したワンボタン機能 \(OBTP\) による会議](#)

## 要件

次の表に、本デモンストレーションに必要な要件の概要を示します。

表 1. 要件

必須	オプション
<ul style="list-style-type: none"> <li>• Cisco AnyConnect がインストールされているラップトップ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 2 台目のラップトップ</li> <li>• ルータ (Cisco dCloud 用に登録および設定済み)</li> <li>• Cisco Unified IP Phone 88XX または 89XX</li> <li>• Cisco DX70 または DX80 デバイス</li> <li>• Cisco SX10 または SX20 ルーム システム</li> </ul>

## このシスコ ソリューションについて

**Cisco Jabber** は **Cisco Unified Communications** インフラストラクチャに必須のコンポーネントで、音声、ビデオ、メッセージング、およびプレゼンス機能を幅広いデバイスのソフトウェア ソリューションとして提供します。Cisco Unified Communications アーキテクチャにおける Cisco Jabber および Cisco UC ハードウェア エンドポイントの機能のうち、あまり知られていないものの 1 つは、Microsoft 環境内の Microsoft Skype for Business クライアントと共存できるという機能です。

このデモンストレーションでは、Cisco UC デバイスの音声、ビデオ、メッセージング、およびプレゼンス機能が、Microsoft Skype for Business と通信する際にフル稼働する方法について説明します。これは特に、大規模な Microsoft 環境内に Cisco Jabber を導入する場合や、Microsoft ソリューションをシスコ ユニファイド コミュニケーション ソリューションに移行する場合に重要です。豊富なコラボレーション機能をすべて使用できることが分かれば、お客様はこのハイブリッド ソリューションを自信を持って導入でき、従業員はサービスや機能を中断させることなく希望のソリューションを使用できます。同僚、パートナー、ベンダー、および顧客は、必要な情報と専門知識にアクセスできます。

Cisco Unified Communications の詳細については、<http://www.cisco.com/go/uc> [英語] をご覧ください。

## トポロジ

このデモンストレーションには、いくつかのエンタープライズ サーバ VM が含まれます。ほとんどのサーバは、管理者レベルのアカウントを使うことで自由に設定できます。管理者アカウントの詳細については、関連するスクリプトの手順およびサーバ詳細表で説明しています。

図 1. デモンストレーションのトポロジ概要

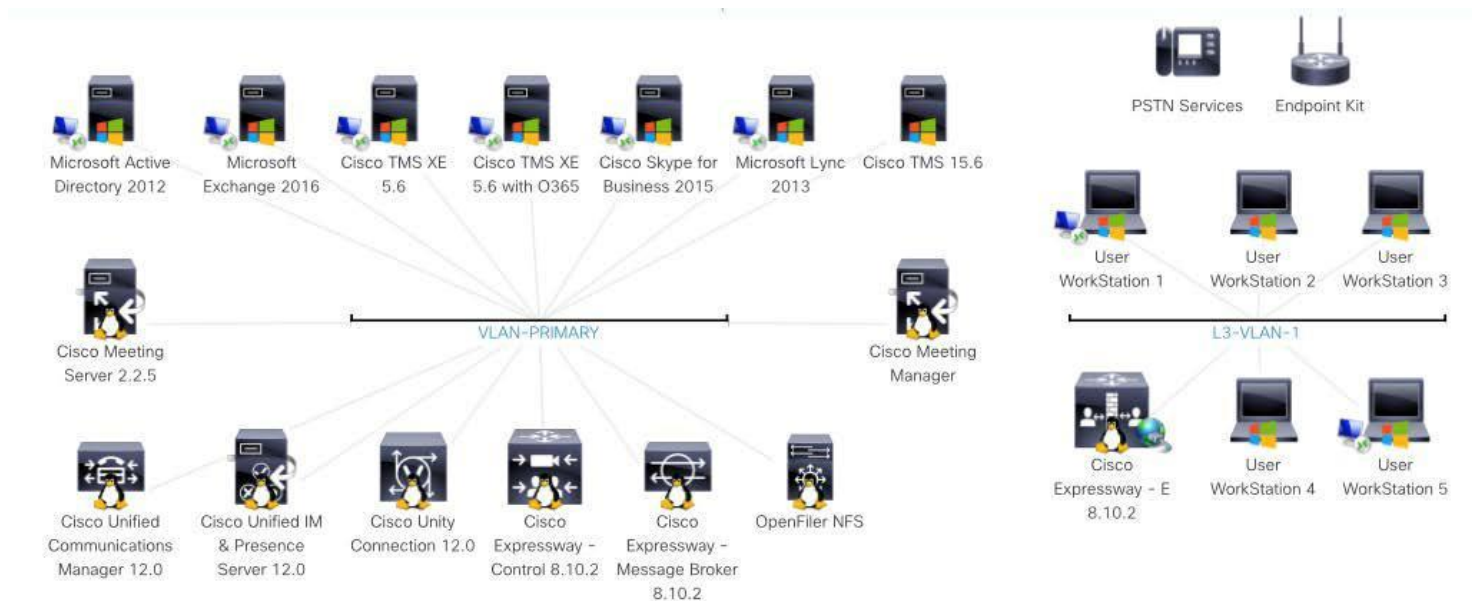


表 2. デモンストレーション サーバ情報

アプリケーション	バージョン	URL	ユーザ名	パスワード
Microsoft Active Directory サーバ	2012	198.18.133.1	Administrator	C1sco12345
Microsoft Exchange Server	2016	198.18.133.2	Administrator	C1sco12345
Cisco Unified Communications Manager	12.0.1.10000-10	<a href="https://cucm1.dcloud.cisco.com">https://cucm1.dcloud.cisco.com</a>	administrator	dCloud123!
Cisco Unified IM/Presence サーバ	12.0.1.10000-12	<a href="https://cup1.dcloud.cisco.com">https://cup1.dcloud.cisco.com</a>	administrator	dCloud123!
Cisco Unity Connection サーバ	12.0.1.10000-8	<a href="https://cuc1.dcloud.cisco.com">https://cuc1.dcloud.cisco.com</a>	administrator	dCloud123!
Cisco TelePresence Management Suite	15.6	<a href="https://tms1.dcloud.cisco.com">https://tms1.dcloud.cisco.com</a>	administrator	C1sco12345
Cisco TelePresence Management Suite Extension for MS	5.6	198.18.135.36	administrator	C1sco12345
Cisco TelePresence Management Suite Extension for O365	5.6	198.18.135.87	administrator	C1sco12345
Cisco Expressway Server – C	X8.10.2	<a href="https://vcsc.dcloud.cisco.com">https://vcsc.dcloud.cisco.com</a>	admin	dCloud123!
Cisco Expressway Server – E	X8.10.2	<a href="https://vcse.dcloud.cisco.com">https://vcse.dcloud.cisco.com</a>	admin	dCloud123!
Cisco Expressway Server – Message Broker	X8.10.2	<a href="https://vcs-mb.dcloud.cisco.com">https://vcs-mb.dcloud.cisco.com</a>	admin	dCloud123!
Cisco Meeting Server	2.2.7	<a href="https://198.18.134.175:445">https://198.18.134.175:445</a>	admin	dCloud123!
Cisco Meeting Manager	1.0.0.44	<a href="https://cmm.dcloud.cisco.com">https://cmm.dcloud.cisco.com</a>	administrator	C1sco12345
OpenFiler NFS	ESA 2.99.1	198.18.135.39	openfiler	dCloud123!
Microsoft Lync 2013	2013	198.18.133.161	dcloud\administrator	C1sco12345
Microsoft Skype for Business 2015	2015	198.18.134.244	dcloud\administrator	C1sco12345
Workstation 1	Windows 10 Pro N	198.18.1.36	DCLOUD\amckenzie	dCloud12345!
Workstation 2	Windows 10 Pro N	198.18.1.37	DCLOUD\aperez	dCloud12345!
Workstation 3	Windows 10 Pro N	198.18.1.38	DCLOUD\mcheng	dCloud12345!
Workstation 4	Windows 10 Pro N	198.18.1.39	DCLOUD\wwhitman	dCloud12345!
Workstation 5	Windows 10 Pro N	198.18.1.40	DCLOUD\cholland	dCloud12345!

## 事前設定済みのユーザ

このコンテンツには、スクリプト形式のシナリオと、ソリューションの機能を実例で示すために事前設定されたユーザとコンポーネントが含まれています。コンポーネントのほとんどは、管理ユーザ アカウントを使用して任意の設定が可能です。コンポーネントへのアクセスに使用する IP アドレスとユーザ アカウント クレデンシャルは、アクティブ セッションの [トポロジ (Topology)] メニューのコンポーネント アイコンをクリックするか、それらを必要とするシナリオ内の手順を調べることで確認できます。

表 3. デモンストレーションの事前設定ユーザ情報

ユーザ名	ユーザ ID	パスワード	ロール	エンドポイント デバイス	URI
Charles Holland	cholland	dCloud12345!	セールス エンジニア	任意の Cisco EX、DX、または SX デバイス 任意の Cisco 88XX または 89XX シリーズ IP Phone Workstation 5 (Cisco Jabber を使用)	cholland@dcloud.cisco.com

**注:** 表 3 に記載されているデバイスは、事前設定済みのシナリオに基づく推奨デバイスです。Cisco Unified Communications Manager にはセルフプロビジョニング機能が搭載されているため、利用可能であれば、任意のデバイスを任意のユーザに割り当てることができます。

## はじめに

### デモンストレーションの前に

Cisco dCloud では、実際の対象者の前でプレゼンテーションを行う前に、アクティブなセッションを使用して、このドキュメントのタスクを実施しておくことを強く推奨します。そうすることで、ドキュメントとコンテンツの構成に慣れることができます。

場合によっては、環境を元の構成にリセットするため、このガイドに従った後に新しいセッションをスケジュールする必要があります。

**お客様向けプレゼンテーションを成功させるためには、入念な準備が不可欠です。**

次の手順に従ってデモンストレーションのスケジュールを組み、デモンストレーション環境を設定します。

1. dCloud セッションを開始します。[\[手順を見る\]](#)

**注: セッションがアクティブになるまで最長で 45 分かかります。**

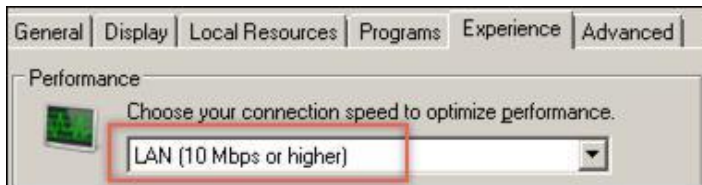
2. [表示 (View)] をクリックして、アクティブ セッションを開きます。
3. **オプション:** ルータとラップトップを接続します。[\[手順を見る\]](#)
4. ルータ経由で接続する場合は、次の手順に進んでください。スタンドアロンのラップトップからセッションに接続する場合は、ラップトップに **Cisco AnyConnect** をインストールし、Cisco dCloud UI で AnyConnect のクレデンシャルを使ってアクセスします。[\[手順を見る\]](#)
5. **Cisco AnyConnect VPN** [\[手順を見る\]](#) およびラップトップ上のローカル RDP クライアント[\[手順を見る\]](#) を使用してワークステーションに接続します。複数のラップトップ PC を使用する場合は、1 台ずつ各ワークステーションに接続します。以下の設定を使用して RDP を設定します。
  - [スタート (Start)] > [すべてのプログラム (All Programs)] > [アクセサリ (Accessories)] > [リモートデスクトップ接続 (Remote Desktop)] の順にクリックします。
  - [オプションの表示 (Options)] をクリックします。
  - [ローカルリソース (Local Resources)] タブを選択します。
  - [リモートオーディオ (Remote audio)] の [設定 (Settings)] をクリックします。
  - [リモートコンピュータで再生 (Play on remote computer)] を選択します。

図 2. 音声再生



- [OK] をクリックします。
- [エクスペリエンス (Experience)] タブをクリックします。
- 接続速度のメニューで [LAN (10Mbps以上) (LAN (10Mbps or higher))] を選択します。

図 3. LAN の接続速度



- [全般 (General)] タブをクリックし、接続先のホストに基づいて [コンピュータ (Computer)] フィールドと [ユーザ名 (Username)] フィールドに次の表の値を入力し、[接続 (Connect)] をクリックします。
  - **Workstation 5** - IP アドレス: **198.18.1.40**、ユーザ名: **dcloud\cholland**、パスワード: **dCloud12345!**
    - ログインするデスクトップ上の Cisco Jabber アイコンと Microsoft Outlook アイコンをダブルクリックします。
  - **Workstation 3** - IP アドレス: **198.18.1.38**、ユーザ名: **dcloud\mcheng**、パスワード: **dCloud12345!**
    - ログインするデスクトップ上の Microsoft Skype for Business アイコンと Outlook アイコンをダブルクリックします。
6. **オプション:** デモンストレーション用ワークステーション クライアントではなく、**WebRTC クライアントを Cisco Meeting Server** に表示する場合は、Chrome Web ブラウザを開いて <https://join.dcloud.cisco.com> に移動し、[amckenzie@dcloud.cisco.com](mailto:amckenzie@dcloud.cisco.com) にパスワード: **dCloud12345!** を使用してログインしてください。Cisco Meeting Server および WebRTC の詳細については、Cisco dCloud [製品データシート](#) をご覧ください。必要に応じて、ご使用のスマートフォンで **IOS 向けの Cisco Meeting Server アプリ** を使用することもできます。
7. **オプション:** このデモンストレーションの Collaboration Edge 機能を利用する場合は、それらの機能が適切にプロビジョニングされていることを確認してください。
- Workstation 5 から Firefox を開き、[コラボレーション管理リンク (Collaboration Admin Links)] > [Cisco Expressway-C] の順にアクセスします。ユーザ名: **admin**、パスワード: **dCloud123!** でログインします。表示される可能性のあるすべてのセキュリティ メッセージを受け入れます。
  - [設定 (Configuration)] > [ゾーン (Zones)] > [ゾーン (Zones)] タブをクリックし、2 つの **トラバーサル クライアント ゾーン (B2B および MRA)** の設定詳細情報で SIP ステータスが [アクティブ (Active)] と表示されていることを確認します。DefaultZone で SIP ステータスは [オン (ON)] と表示されます。

注:これらのゾーンの SIP ステータスが [アクティブ (Active)] でない場合は、デモンストレーション セッションの障害が発生し、先へ進むことができません。現在のセッションを終了し、新しいセッションを開始してください。これは、自動化のエラーが原因で起こることがあります。

図 4. ゾーン ステータス

Name	Type	Calls	Bandwidth used	H323 status	SIP status	Search rule status	Actions
DefaultZone	Default zone	0	0 kbps	On	On		<a href="#">View/Edit</a>
<a href="#">CfTop-cuom1.dcloud.cisco.com</a>	Neighbor	0	0 kbps	Off	Active	Enabled search rules: 1	<a href="#">View</a>
<input type="checkbox"/> <a href="#">CUKM Neighbor</a>	Neighbor	0	0 kbps	Off	Active	Enabled search rules: 2	<a href="#">View/Edit</a>
<input type="checkbox"/> <a href="#">VCS-e for B2B video Traversal client</a>	Traversal client	0	0 kbps	Off	Active	Enabled search rules: 2	<a href="#">View/Edit</a>
<input type="checkbox"/> <a href="#">VCS-E for MRA</a>	Unified Communications traversal	0	0 kbps	Off	Active	No search rules configured	<a href="#">View/Edit</a>

8. **オプション: MRA (モバイルおよびリモート アクセス) エンドポイントをプロビジョニングします。** このデモンストレーション デバイスは、ホーム オフィスなど、他のリモートの作業場所から会議通話に接続しています。この役割は、内線 6024 の **Tanya Adams** に割り当てられています。Tanya は、UCM 12.0 でサポートされているすべての Cisco Unified Communications を使用できます。[[手順を見る](#)]
9. **オプション: Collaboration Edge 機能を使用していない場合は、このデモンストレーションで Cisco Unified Communications Manager のセルフプロビジョニング機能を使用して、XYZ Corporate LAN 上の電話機をプロビジョニングしてください。** [[手順を見る](#)]。電話のプロビジョニングには、**表 3** の内線番号を使用します。
  - **Charles Holland** は、**内線 6018** で、**表 1** にある任意のシスコ デバイスを使用できます。
10. **オプション: B2B (ビジネス ツー ビジネス) エンドポイントのドメインを有効にします。** このデバイスは、別の会社のオフィスより、社内ネットワークを使用して会議コールに接続しています。このエンドポイント デバイスは dCloud Cisco Unified CM に登録されていないため、インターネットを介して SIP コールを受発信できる場合に限り、**使用可能な任意のエンドポイント デバイス**を使用できます。[[手順を見る](#)]。このデモンストレーションでは、**サードパーティのドメインとして、cisco.com ドメイン**を使用します。

11. シナリオ 2 に必須: TMS と TMSXE でルーム システムを見つけます。シスコでは、お客様向けプレゼンテーションのために、各地に物理的な会議室を確保しています。次に示すいずれかの場所でプレゼンテーションを行うかのようにこのデモンストレーションを実行する場合、エンドポイントを会議室自体に割り当てて、会議室の電話と同様に扱うことができます。これは、セッションに使用する物理的な会議室の仮想インスタンスです。デバイスを Cisco dCloud ルータに接続し、次の表に記載したセルフプロビジョニング ID を使用して、上記のセルフプロビジョニング手順に従います。[\[手順を見る\]](#) [英語]

表 4. 事前設定された会議室の電話

データセンター	会議室の場所	デバイス名/ユーザ名	電話番号	セルフプロビジョニング ID
Americas	New York - George Washington Bridge	USANYC	+19725556051	6051
Americas	RTP - Little House on Prairie	USARTP	+19725556052	6052
Americas	SJC - Johnnie Walker	USASJC	+19725556053	6053
Americas	Toronto - NIPISSING	CANTOR	+19725556054	6054
Americas	Vancouver - Hornby	CANVAN	+19725556055	6055
EMEAR	London - Piccadilly	UKLON	+19725556056	6056
EMEAR	Berlin - Brandenburger	GERBER	+19725556057	6057
EMEAR	Dublin - Galway	IREDUB	+19725556058	6058
EMEAR	Stockholm - Berzelius	SWESKM	+19725556059	6059
EMEAR	Madrid - Mulhacen	SPAMAD	+19725556060	6060
APJC	Singapore - Outram Park	SINORP	+19725556061	6061
APJC	Beijing - Great Wall	CHIBJG	+19725556062	6062
APJC	Shanghai - Gui Zhi Xiang	CHISHG	+19725556063	6063
APJC	Tokyo Rhode Island	JAPTOK	+19725556064	6064
APJC	RTP - Little House on Prairie	USANYC	+19725556051	6065

12. Office 365 アカウントと顧客トライアルの設定: Office 365 アカウントをまだ持っていない場合、Microsoft Office 365 のトライアル版アカウントでサインアップし、このデモンストレーション用にトライアル環境を設定する必要があります。ヘルプ ページのすべての手順に従ってください。[\[手順を見る\]](#) [英語]

13. dCloud セッションを Office 365 環境と同期する:

- Workstation 5 (198.18.1.40) に RDP 接続し、ユーザ名: **dcloud\cholland**、パスワード: **dCloud12345!** でログインします。
- Firefox を開き、ホームページから、[コラボレーション管理リンク (Collaboration Admin Links)] > [Cisco Unified Communication Manager] を参照します。ユーザ名: **administrator**、パスワード: **dCloud123!** でログインします。
- [システム (System)] > [LDAP] > [LDAPディレクトリ (LDAP directory)] の順に移動します。
- [検索 (Find)] をクリック後、**dCloud\_LDAP** をクリックします。
- [完全同期を今すぐ実施 (Perform Full Sync Now)] をクリックします。警告が表示されますので、[OK] をクリックして続行します。
- 次に [ユーザ管理 (User Management)] > [エンドユーザ (End User)] に移動します。
- ユーザ Charles Holland を検索します。
- ディレクトリ URI フィールドが **cholland@domain.com** となっていることを確認します。セッションの詳細に表示されているドメインである必要があります。

- ブラウザで新たにタブを開き、[コラボレーション管理リンク (Collaboration Admin Links)] > [Cisco Unified IM and Presence] に移動します。 **administrator** として、パスワード **dCloud123!** でログインします。
- ホームページから、[プレゼンス (Presence)] をドロップダウンして [ドメイン (Domains)] を選択します。
- そのページに、[dcloud.cisco.com](https://dcloud.cisco.com) およびセッションの詳細に表示されているドメインの 2 つのドメインが表示されていることを確認します。ドメインの例としては、[collabeedge-194.dc-01.com](https://collabeedge-194.dc-01.com) または [cb194.dc-01.com](https://cb194.dc-01.com) が挙げられます。

**注:** 2 つのドメインが表示されない場合は、Cisco dCloud セッション ([マイハブ (My Hub)] > [セッション (Sessions)] > [表示 (View)]) に移動して、Cisco Unified IM and Presence サーバを再起動してください。[サーバ (Servers)] をクリックし、**cup12** サーバの横にある矢印を展開します。[ゲスト OS (Guest OS)] セクションで、[再起動 (Reboot)] をクリックします。

- 次に、[プレゼンス (Presence)] を再度ドロップダウンし、[ドメイン間フェデレーション (Inter-domain Federation)] > [SIPフェデレーション (SIP federation)] に移動します。
- すでに 2 つのドメインが表示されているはずです。
- フェデレーションが動作するように、ここで O365 ドメインを追加します。

IM and Presence Service can be configured to integrate with a foreign domain (inter-domain federation), allowing the IM and Presence Service users in an enterprise domain to interact with users in a foreign domain

Domain Name\*

Description\*

Integration Type\*

Direct Federation

Save

\*- indicates required item.

- 上記の変更を確認/実施したところで、セッションで O365 と連携する準備が整いました。



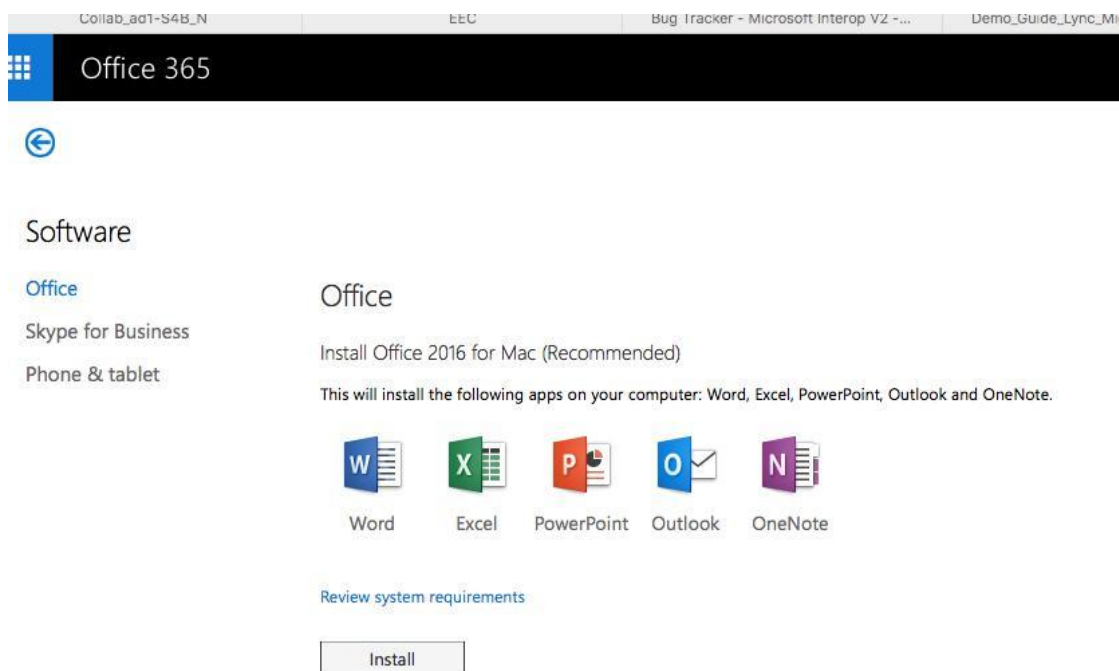
#### 14. ラップトップに Microsoft Skype for Business をインストールします。

- Office 365 ホームページ(<https://www.office.com>)に自分のクレデンシャルを使用してログインします。右上に表示される Office 2016 のインストール リンクの下にある [その他のインストールオプション(Other installs)] をクリックします。

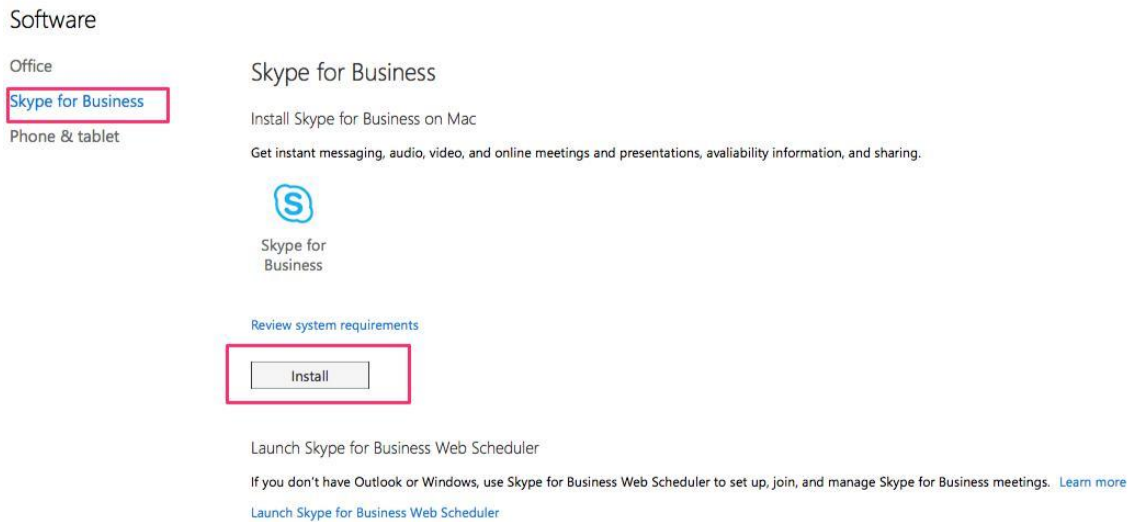


**注:** [Office 2016のインストール (Install Office 2016)] をクリックしないでください。クリックした場合、トライアル期間が終了した際に、既存の Office に問題が発生する可能性があります。誤って Office 2016 をインストールした場合、[コントロールパネル (Control Panel)] > [プログラムと機能 (Programs and Features)] からすべてのコンポーネントをアンインストールする必要があります。既存の Office インストールを正しく復元するには、最後にこのリストにある既存の Microsoft Office インストールをクリックし、[修復 (Repair)] を選択してすべての機能を再度有効にします。

- 新しいウィンドウが開きます。




- 左側にある [Skype for Business] をクリックした後、[インストール (Install)] をクリックします。



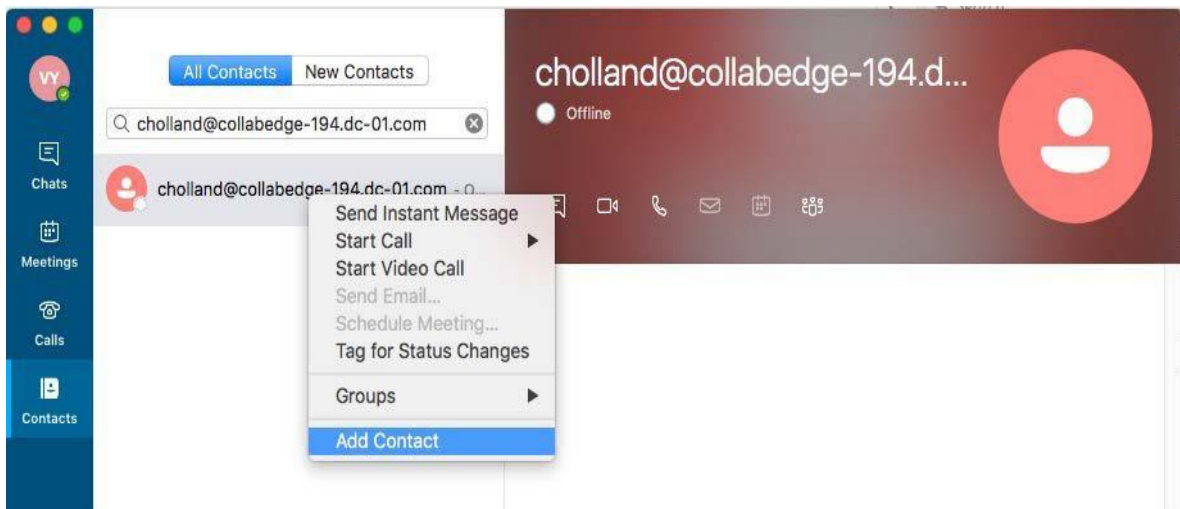
- これでセットアップ ウィザードが実行され、ラップトップに Skype for Business がインストールされます。

#### 15. ラップトップで Office 365 Skype for Business を設定します。

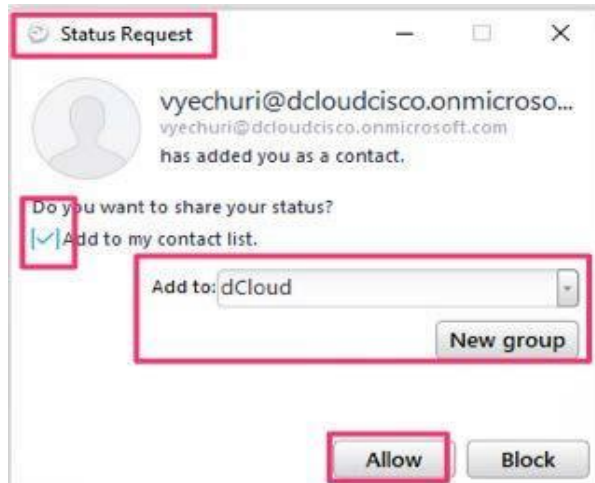
- Workstation 5 (198.18.1.40) に RDP 接続し、ユーザ名: **dcloud\cholland**、パスワード: **dCloud12345!** でログインします。
- デスクトップから [Cisco Jabber] を開きます。通常は自動ログインします。自動ログインしない場合は、**cholland** としてパスワード: **dCloud12345!** でログインします。

Jabber クライアントが正しく読み込まれない、あるいはプレゼンス状態が正しくない場合は、歯車のアイコン [  ] > [サインアウト (Sign Out)] をクリックし、[Jabberのリセット (Reset Jabber)] をクリックしてから、もう一度開いてサインインします。

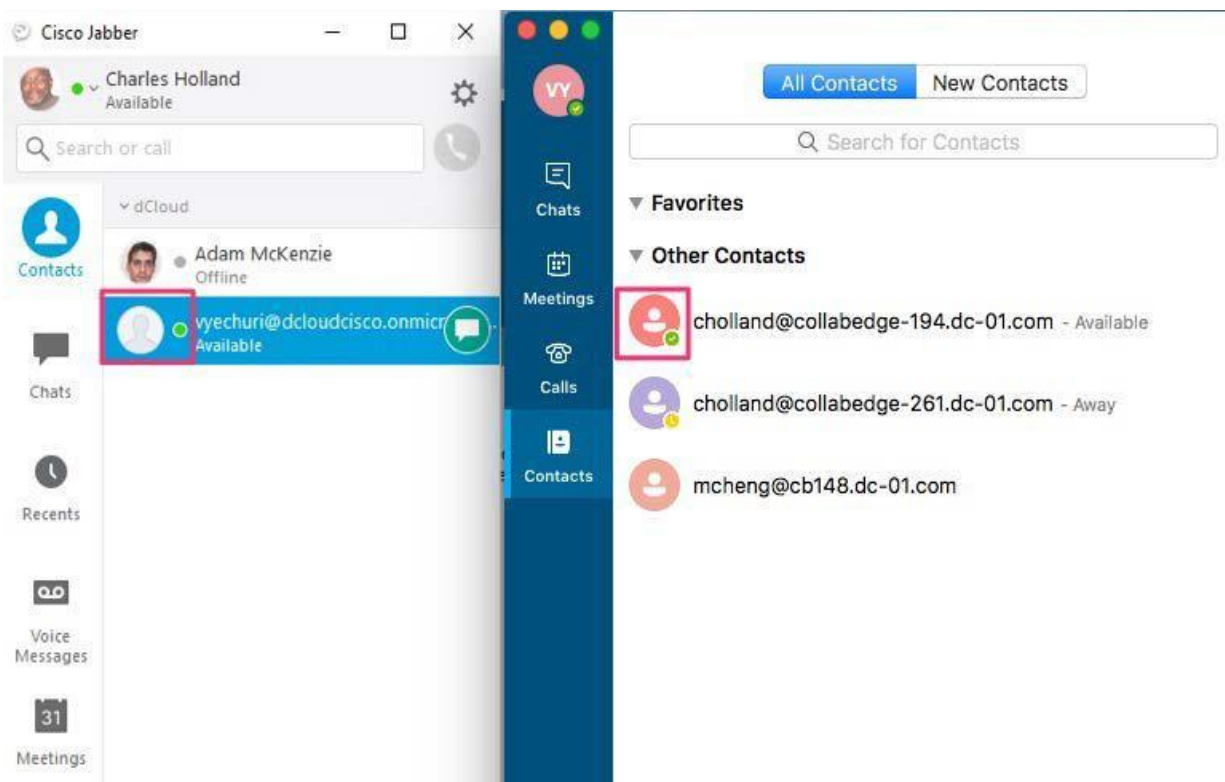
- ラップトップで <お客様名> として、お客様のクレデンシャルを使用して O365 Skype for Business にログインします。
- Collaboration Edge ドメインの Cisco UC ユーザ名を [連絡先の検索 (search contacts)] タブに入力し始めます。
- ユーザ名を右クリックし、[連絡先の追加 (Add Contact)] をクリックします。



- これにより、以下に示すように Workstation 5 で通知/ステータス要求がトリガーされます。



- O365 によるステータスの確認を許可し、ユーザを連絡先として追加すると、そのステータスが表示され、O365 ユーザは <お客様名> のステータスを確認することができます。どちら側にもステータスが表示されない場合は、サインアウトしてサインインし直すことができます。これにより、クライアントはステータス情報を交換します。また、片側のステータスを変更し、それが他のクライアントに反映されるのを確認できます。



- Workstation 5 で、O365 ユーザの連絡先を右クリックして、[プロフィールの編集 (Edit profile)] を選択します。

- アドレスを [チャット(Chat)] フィールドからコピーし、それを [電子メール(Email)] および [勤務先電話(Work Phone)] フィールドに貼り付けます。これは Jabber からクリック ツー ダイアル オプションを利用する際に役立ちます。オプションで、O365 ユーザの表示名、姓、名を、自由に追加することができます。

**注:** 両方のクライアントで写真が更新されない場合がありますが、現時点ではサポートされていません。

## セッションの保存

このデモンストレーションのカスタム バージョンを保存するには、次の手順に従う必要があります。カスタム バージョンを保存するには、次の手順に従います。デモのセットアップの一環としてこれを実施しないでください。これを実施するのは、セッションを終了したときのみです。

パブリックにルーティング可能な IP アドレスはデモ セッションごとにダイナミックに割り当てられるため、デモを保存し新しいインスタンスを起動すると、以前取得したものと異なるドメインおよび IP が割り当てられると想定されます。そのため、デモンストレーションを保存するたびに、下記の手順を繰り返す必要があります。この手順は、Collaboration Edge 関連の設定をリセットし、デモンストレーションを正しく保存できるよう準備するために実行する必要があります。

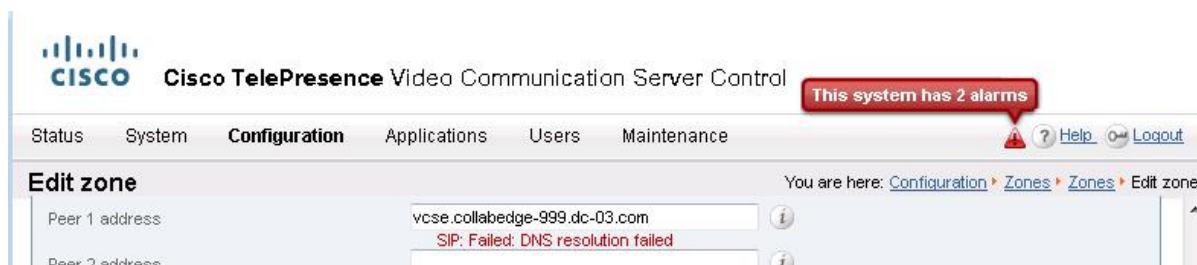
**重要:** 下記の手順に従わなかった場合は、保存されたデモンストレーションが破損し、Collaboration Edge 機能が動作しなくなります。このようなシナリオでは、保存されたデモンストレーションを修復できず、変更やカスタマイズがすべて失われます。

**注:** Workstation 2 を変更した場合、その変更がデモンストレーション ガイドに記載されている内容以外の場合は、保存プロセスが失敗する可能性があります。このような原因で破損したセッションは回復不能です。

1. **ラップトップ上のローカル RDP クライアント**を使用して、デモンストレーション用の **Workstation 2** (198.18.1.37)にアクセスします。  
[手順を見る](#)。ユーザ名 : **dcloud\laperez**、パスワード : **dCloud12345!** でログインします。

2. CMD コンソール ウィンドウを開き、**ResetCerts** と入力します。
3. Collab Edge 証明書のリセットには 15 ~ 20 分かかります。プロセスが終了するまで何も行わないでください。特に、スクリプトが完了するまでは、Workstation 2 の操作はしないでください。
4. AD スクリプトのリセット: AD1 サーバ(**198.18.133.1**)に RDP 接続します。ユーザ名: **DCLLOUD\administrator**、パスワード: **C1sco12345** でログインします。
5. タスクバーからファイル エクスプローラを開き、**C:\dcloud** に移動します。
6. ファイル **resetUPN.ps1** を右クリックし、[PowerShellで実行(Run with PowerShell)] をクリックします。
7. Mail スクリプトのリセット: Exchange サーバ(**198.18.133.2**)に RDP 接続します。ユーザ名: **DCLLOUD\administrator**、パスワード: **C1sco12345** でログインします。
8. タスクバーからファイル エクスプローラを開き、**C:\dcloud** に移動します。
9. ファイル **reset\_exchange.ps1** を右クリックし、[PowerShellで実行(Run with PowerShell)] をクリックします。
10. Workstation 2 から Firefox ブラウザ セッションを開き、[コラボレーション管理リンク(Collaboration Admin Links)] > [Cisco Video Conferencing Server - Control] の順にアクセスします。ユーザ名: **admin**、パスワード: **dCloud123!** でログインします。表示される可能性のあるすべてのセキュリティ メッセージを受け入れます。
11. [設定(Configuration)] > [ゾーン(Zones)] > [ゾーン(Zones)] タブをクリックし、2 つの**トラバーサル クライアント** ゾーンのいずれかをクリックします。設定の詳細情報に SIP ステータスが [失敗(Failed)] と表示されることを確認します。
12. **ピア 1 アドレス**は、**vcse.collabedge- または cb)999.dc-YY.com** である必要があります。YY はデータセンターに依存し、01 は AMER、02 は EMEAR、03 は APJ です。

図 5. ゾーン設定



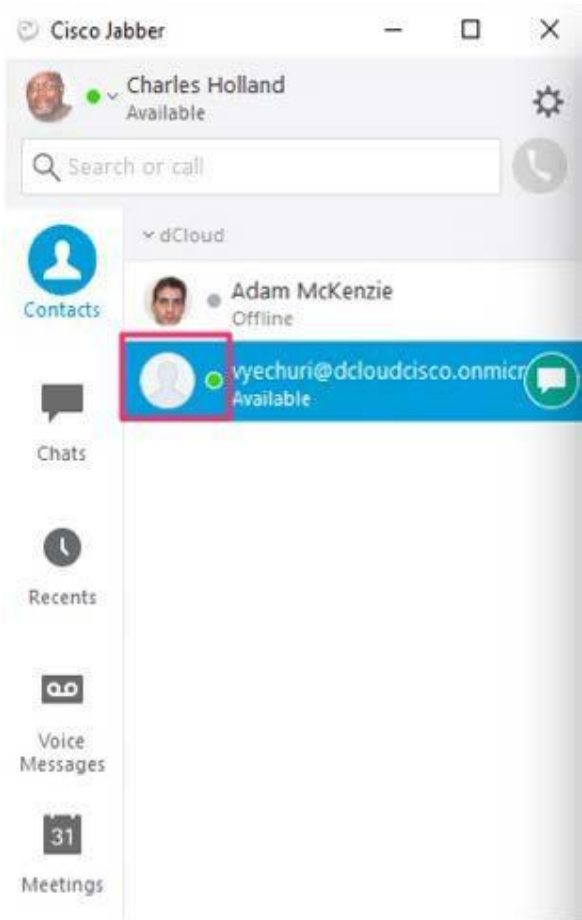
13. これで通常のデモ保存プロセスを続行できます。詳細については、Cisco dCloud の [ヘルプ ページ](#) を参照してください。


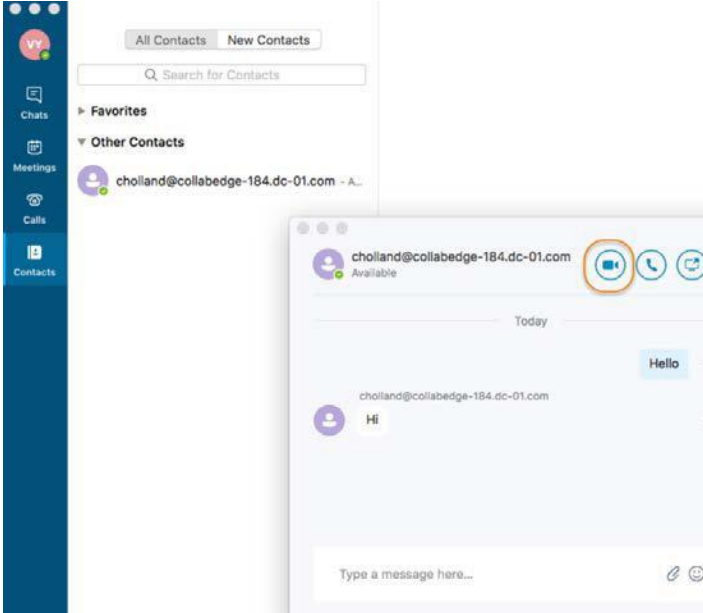
## シナリオ 1: Microsoft Skype for Business Office 365 と Cisco Unified Communications の相互運用性

次のシナリオでは、XYZ Corporation が最近 ABC Company を買収したという状況を取り上げます。XYZ Corporation では Microsoft Skype for Business Office 365 コミュニケーション ソリューションが使用されており、ABC Company では Cisco Unified Communications ソリューションが使用されています。<お客様> は XYZ のシステム エンジニアで、ABC Company のエンジニアである Charles Holland とともに合同プロジェクトで作業しています。2 人は異なるコミュニケーション技術を利用していますが、シームレスに連絡を取り合うことができます。

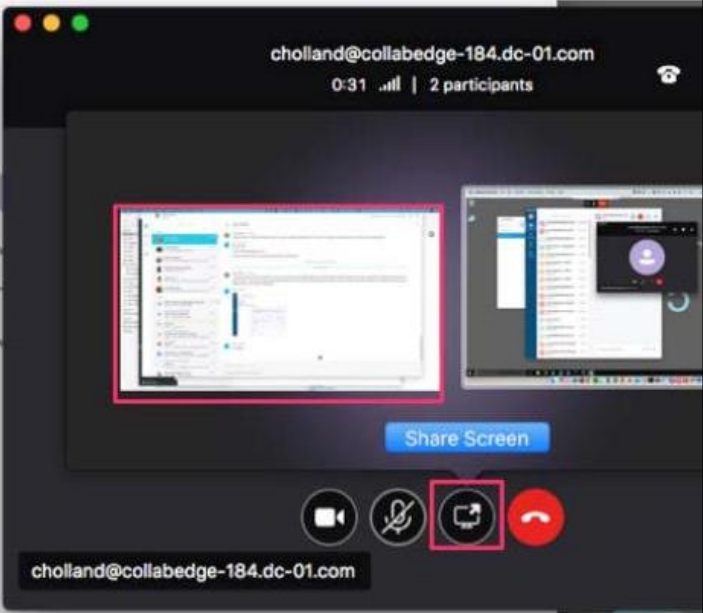
### デモンストレーションの手順

手順	説明の要点	操作
1	<p>こんにちは。&lt;お客様名&gt; と申します。システム エンジニアとして XYZ Corporation で勤務しています。私は Microsoft Skype for Business を使って、IM &amp; Presence、音声、およびビデオ会議で同僚とコミュニケーションをとっています。</p> <p>XYZ Corporation は、最近 ABC Company を買収しました。ABC Company では、Cisco Unified Communications ソリューションが使用されています。私は ABC Company にいる新たな同僚たちと仕事を始めていますが、彼らとはシームレスにコミュニケーションを取ることができます。その際、Microsoft Skype for Business と Cisco UC のどちらのクライアントを相手方が使用しているか把握する必要はありません。</p> <p>私は ABC Company との合同プロジェクトで作業しており、主に連絡するのは Charles Holland です。それでは、私が Skype for Business クライアントを使用して、Charles Holland とプロジェクトについて連絡を取り、プロジェクトにおける彼の成果の最新ステータスを把握する方法を説明します。</p> <p><b>注:</b> 記載の手順では、Workstation 5 で Charles Holland のオンプレミス ソリューションを使用します。MRA のデモンストレーションをご希望の場合は、「はじめに」の <a href="#">ステップ 8</a> で示しているように、Tanya の Cisco Jabber デバイスをプロビジョニングする必要があります。</p>	<p>物理ラップトップ上で(&lt;お客様&gt; として) :</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Skype for Business を開きます。</li> <li>• Charles Holland のプレゼンス ステータスが [応答可能 (Available)] であることを確認します。</li> </ul>

手順	説明の要点	操作
2	<p>こんにちは、Charles Holland です。私は ABC Company に勤務しています。ここでは、Cisco Unified Communications ソリューションが使用されています。</p> <p>&lt;お客様名&gt; は XYZ Corporation のシステム エンジニアで、私は彼と一緒に作業しています。私は &lt;お客様名&gt; に、このプロジェクトでの私の担当部分の最新情報を報告することになっています。</p> <p>Cisco Jabber を確認すると、&lt;お客様名&gt; のプレゼンス ステータスが [応答可能 (Available)] になっています。</p>	<p>Workstation 5 上で (Charles Holland として) :</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>まだログインしていない場合は、<b>198.18.1.40</b> の Workstation 5 に、ユーザ名 : <b>dcloud\cholland</b> およびパスワード : <b>dCloud12345!</b> を使用してログインします。</li> <li>ログインすると、Cisco Jabber for Windows クライアントが開き、ログインした状態になります。これでこのクライアントを使うことができます。クライアントが自動的に開かない場合は、手動で開きます。</li> <li>Cisco Jabber for Windows クライアントで &lt;お客様名&gt; のプレゼンス ステータスを確認すると、[応答可能 (Available)] になっています。</li> </ul> 

手順	説明の要点	操作
3	<p>&lt;お客様名&gt; として:</p> <p>Charles Holland のプレゼンス ステータスを見ると、応答可能であることが分かります。Charles に連絡して、プロジェクトの最新状況について教えてもらうことにします。</p> <p>Charles から、応答可能なので、少し話をしたいという返事があります。私は Skype for Business を使って、Adam へのビデオ コールを開始します。</p>	<p>ラップトップ上で(&lt;お客様&gt; として):</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Microsoft Skype for Business クライアント内で、Charles Holland をダブルクリックして、彼に IM を送信します。メッセージには次のように書きます。</li> </ul> <p><i>こんにちは、Charles。プロジェクトの最新状況を報告してほしいのですが、今、時間はありますか。</i></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Enter を押して、このメッセージを送信します。</li> </ul> <p>Workstation 5 上で(Charles Holland として):</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>Cisco Jabber のチャット通知 [ Chats ] をクリックして、&lt;お客様名&gt; からのメッセージをダブルクリックします。</li> <li>&lt;お客様名&gt; の IM メッセージに「大丈夫です。コールをお願いします」と返信します。</li> <li>Enter を押して、このメッセージを送信します。</li> </ul> <p>ラップトップ上で(&lt;お客様&gt; として):</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Microsoft Office 365 Skype for Business クライアントで、[ビデオコール (Video Call)] ボタンをクリックします。</li> </ul> 



手順	説明の要点	操作
4	<p>Charles Holland として: 私はプロジェクトについて &lt;お客様名&gt; と少し話したいと思っています。Monica から着信があったので、私は [応答 (Answer)] をクリックします。</p> <p>私たちはプロジェクトについて話します。&lt;お客様名&gt; は自分のデスクトップを共有して、プロジェクトの彼の担当部分に関する情報を表示し、それが私の設計に影響する可能性について説明します。</p> <p><b>価値提案:</b> Microsoft Skype for Business デバイスと Cisco UC デバイスの間で、インスタントメッセージのシームレスな送受信、ビデオ コール、デスクトップ表示の共有が可能です。どの操作も、両方のユーザが同じクライアントを使っているかのように簡単に行うことができます。シスコと Microsoft のハイブリッド環境は、機能やサービスを犠牲にしない効果的な運用が可能です。</p>	<p>Workstation 5 上で(Charles Holland として):</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• &lt;お客様名&gt; から着信があったら、[応答 (Answer)] をクリックします。Cisco UC デバイスを利用している場合は、必ずこの物理エンドポイントでコールに応答してください。</li> <li>• 応答すると、両方のユーザのステータスが変更されます。ステータスが、Microsoft Skype for Business では [通話中 (In a call)]、Cisco Jabber では [通話中 (On a call)] になります。</li> <li>• <b>オプション:</b> Charles Holland 用のデバイスに Cisco EX、DX、または SX を使用している場合は、Workstation 5 に Microsoft Skype for Business からの画面共有が表示されます。<u>ラップトップ</u> 上で、[画面の共有 (Share Screen)] ボタンをクリックします。</li> </ul>  <p>The screenshot shows a video call window with a 'Share Screen' button highlighted in blue. Below it, a row of icons for video, mute, screen sharing, and end call is visible, with the screen sharing icon also highlighted in red. The call ID 'cholland@collabedge-184.dc-01.com' and '2 participants' are shown at the top.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• コールを終了します。</li> </ul>

手順	説明の要点	操作
5	<p>(オプション。Charles Holland として):</p> <p>Cisco UC の新機能の中で、私が特に気に入っているのは、クラウドベースの CMR ブリッジです。社内外のユーザが私との会議に参加できるようにするために、自分用のブリッジを 1 つ作成する必要があります。私はブリッジを 1 つ設定し、&lt;お客様名&gt; に、ダイヤル インしてこれらの機能をテストするよう依頼します。</p>	<p>(オプション): Cisco UC ユーザは、Skype for Business ユーザも参加できる CMR ブリッジを作成できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Workstation 5 から Web ブラウザを開き、[コラボレーション管理リンク (Collaboration Admin Links)] &gt; [クラウドCMRセットアップ (Cloud CMR Setup)] の順にクリックします。</li> <li>既存の <b>cholland</b> クラウド CMR アカウントを有効化するには、WebEx のユーザ名: <b>cholland</b> を入力します。</li> <li>[アカウントの有効化のために送信 (Submit for account activation)] をクリックします。</li> </ul> <div data-bbox="808 661 1502 1323" style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px;"> <p><b>dCloud Collaboration Meeting Room (CMR) Cloud Account Creation/Activation</b></p> <p>Use the form below to create a new CMR Cloud account on the <a href="https://dclouddemo.webex.com">dclouddemo.webex.com</a></p> <p><b>Accounts are deactivated every Friday between 5-7pm EST.</b> If you have already created to activate your account again.</p> <p><i>Make sure to capture the login information now in case you forget.</i></p> <p><b>CMR Cloud New Account Creation</b></p> <p>ALL fields are required for account creation.</p> <p>Webex UserName: <input type="text"/> *Username should not contain any spaces and must not exist on the WebEx Password: <input type="password"/> *Password must contain: 8 characters, mixed case, and at least 1 number  Confirm Password: <input type="password"/>  First Name: <input type="text"/>  Last Name: <input type="text"/>  E-mail: <input type="text"/> *Enter valid e-mail address with @ sign and no spaces. TIP: If you have  <input type="button" value="Submit for CMR Cloud account creation"/></p> <p><b>CMR Cloud Account Activation</b></p> <p>Webex UserName: <input type="text" value="amckenzie"/>  <input type="button" value="Submit for account activation"/></p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>CMR ブリッジのアクティベーション後に<b>ホスト PIN</b> が示されることに注意してください。</li> </ul> <div data-bbox="808 1423 1502 1533" style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px;"> <p><b>dCloud Collaboration Meeting Room (CMR) Cloud User Activation Status</b></p> <p>You have successfully activated your dCloud CMR Cloud account with username <b>amckenzie</b> <a href="https://dclouddemo.webex.com/meet/amckenzie">https://dclouddemo.webex.com/meet/amckenzie</a>. You can also dial directly into the CMR from <b>amckenzie@dclouddemo.webex.com</b>. The current host PIN is <b>2810</b>.</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>ラップトップで、Skype for Business クライアントを使用してそのビデオ エンドポイントのアドレスにコールすることができます。具体的にはその形式は、username.dclouddemo@lync.webex.com、他の Jabber ビデオエンドポイントからは <a href="https://dclouddemo.webex.com">username@dclouddemo.webex.com</a> のようになります。これにより、&lt;お客様名&gt; はクラウドベースの CMR を使用して、Charles Holland のエンドポイントに直接接続されます。</li> <li>Charles Holland が参加するには<b>ホスト PIN</b> を入力し、&lt;お客様名&gt; が参加するには # を押します。</li> <li>CMR 会議を終了して、退出します。</li> </ul>

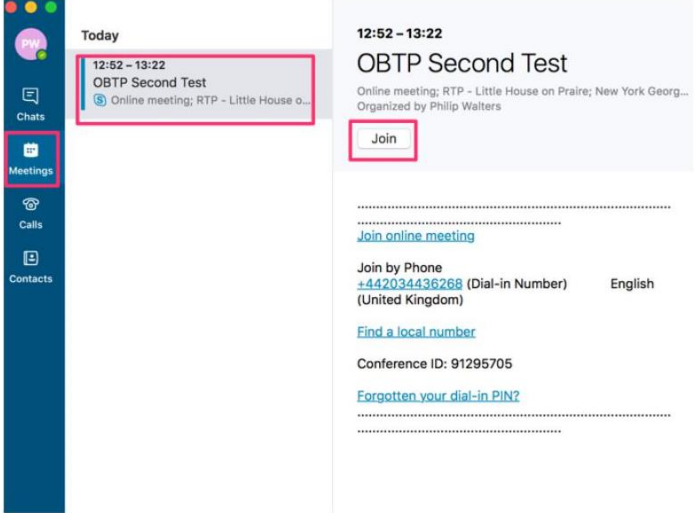
## シナリオ 2: Skype for Business を利用したワンボタン機能 (OBTP) による会議

このシナリオでは、XYZ Corporation がユーザを Cisco UC に移行します。<お客様名> は今回移行されるグループに含まれています。

### デモンストレーションの手順

手順	説明の要点	操作
1	<p>こんにちは。&lt;お客様名&gt; と申します。システム エンジニアとして XYZ Corporation で勤務しています。私は Microsoft Skype for Business を使って、IM &amp; Presence、音声、およびビデオ会議で同僚とコミュニケーションをとっています。</p> <p>XYZ Corporation は、最近 ABC Company を買収しました。ABC Company では、Cisco Unified Communications ソリューションが使用されています。私は ABC Company にいる新たな同僚たちと仕事を始めていますが、彼らとはシームレスにコミュニケーションを取ることができます。その際、Microsoft Skype for Business と Cisco UC のどちらのクライアントを相手が使用しているか把握する必要はありません。</p> <p>私は ABC Company との合同プロジェクトで作業しており、主に連絡するのは Charles Holland です。Charles Holland と私は、XYZ Corporation の本社にいる一部の関係者に、プロジェクトの最新状況について説明しようとしています。</p> <p>関係者は、自分のいる場所の近くの Cisco SX(または DX) ルーム システムが設置された会議室から会議に参加する予定です。TelePresence Meeting Server に、このルーム システムをその場所も含めずで追加しているため、必要なことは、Microsoft Outlook 会議出席依頼の [ルーム(Rooms)] フィールドにルーム システムを追加するだけです。</p>	<p>ラップトップ上で(&lt;お客様&gt; として) :</p> <p><b>注:</b>「はじめに」の <a href="#">ステップ 11</a> で説明したように、必ずルーム システムを TMS および TMSXE に接続しておいてください。また、OBTP は、MRA 登録デバイスでは動作しません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Office 365 の Outlook ホームページ (<a href="https://www.outlook.office.com/owa/">https://www.outlook.office.com/owa/</a>) に自分のクレデンシャルを使用してログインします。[新規 (New)] &gt; [予定強イベント (Calendar event)] をドロップダウンします。これで新しいウィンドウが開きます。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>[Skype会議を追加 (Skype Meeting)] をクリックして追加します。任意に件名を入力し、会議の開始時間と終了時間を適宜設定します。会議の開始時間を数分後に設定することをお勧めします。</li> <li>右側の [連絡先 (People)] セクションで、ルーム システムのアドレスを &lt;room system&gt;@domain.com と入力します。以下のように、ポップアップ表示される名前をダブルクリックして追加します。</li> </ul> 

手順	説明の要点	操作
2	<p>ルーム システムと TMSXE から承認の電子メールを受信します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ルーム エンドポイントから承認の電子メールを受信し、TMSXE から会議のダイヤルイン情報の確認メールを受信するのを確認します。</li> </ul>

手順	説明の要点	操作
3	<p>&lt;お客様名&gt;として: Outlook 会議のリマインダから [オンラインで参加 (Join Online)] をクリックし、Skype for Business クライアントから直接会議に参加します。最初の参加者のため、他の人が参加するのを待ちます。</p> <p>関係者が会議に参加しました。会議の参加に必要なことは、ルーム システムで [参加 (Join)] ボタンを押すだけです。ラップトップを開く必要すらありません。これは、OBTP (ワンボタン機能) と呼ばれます。非常に使いやすく、時間を節約できます。</p>	<p>ラップトップ上で (&lt;お客様&gt; として):</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[会議 (Meetings)] &gt; [参加 (Join)] をクリックして、&lt;お客様名&gt; の Skype for Business クライアントから会議に参加します。</li> </ul>  <p>The screenshot shows the Outlook meeting interface. On the left, there is a navigation pane with 'Meetings' selected. The main area displays a meeting titled 'OBTP Second Test' for the time '12:52 - 13:22'. A 'Join' button is highlighted with a red box. Below the meeting title, there are links for 'Join online meeting', 'Join by Phone' (with a phone number and language), 'Find a local number', and 'Forgotten your dial-in PIN?'.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>会議が開始されると、ルーム エンドポイント上に、会議に参加するための [参加 (Join)] ボタン (ワンボタン機能 (OBTP)) が表示されます。関係者が参加する場合には、このボタンを押します。</li> </ul> <p><b>注:</b> この会議は O365 で開催されるため、CMS に会議が設定されるまでに 2 ~ 3 分かかる場合があります。したがって、会議開始時間の約 3 分後に会議に参加することをお勧めします。</p> <p>さらに、Office 365 デバイスを使用した OBTP 会議では、ビデオおよび画面共有はサポートされていません。</p>

©2018 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

Cisco, Cisco Systems, および Cisco Systems ロゴは、Cisco Systems, Inc. またはその関連会社の米国およびその他の一定の国における登録商標または商標です。本書類またはウェブサイトに掲載されているその他の商標はそれぞれの権利者の財産です。

「パートナー」または「partner」という用語の使用は Cisco と他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(1502R)

この資料の記載内容は2018年2月現在のものです。

この資料に記載された仕様は予告なく変更する場合があります。



シスコシステムズ合同会社

〒107 - 6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー  
http://www.cisco.com/jp

お問い合わせ先